検査科

病院で診察を受けたとき、医師から「検査をしましょう」と言われ、血液・尿・痰・膿・細胞などを取ることがあります。検体検査室では、これら採取されたものを顕微鏡でのぞいたり、成分を分析したりして病気の診断や治療の経過観察、また治癒の判定にとても大切な情報を提供しています。
生理機能検査室では、直接みなさんの身体にふれて検査する生体検査を行います。主に脳波検査・心電図検査・肺機能検査・超音波検査などを行っています。当科のスタッフはそれぞれ専門部門に分かれて検査を担当しています。

スタッフ紹介

当検査科は臨床検査技師11名で業務を行っています

生理機能検査項目

脳波検査

大脳の活動状態を検査し、てんかんや脳障害などの評価をします。脳の働きに問題があると、脳波が変化したり乱れたりします。頭にクリームをぬり、電極を装着します。仰向けになり、目を閉じてリラックスした状態で光刺激（カメラのフラッシュの様な光）を行ったり、息を大きく吸ったり吐いたりしながら、記録します。また、必要に応じて睡眠時の記録も行います。

心電図検査

心拍数、不整脈の有無や種類、心臓の肥大や拡張、ペースメーカーの動き、投薬の効果、虚血性心疾患など様々なことを診断する心臓の最も基本的な検査です。

ホルター心電図

通常の心電図では数分の記録しか出来ず、測定時以外での変化がわかりません。24 時間心電図を記録することで動悸・めまいなどの症状時の波形や不整脈の頻度、また運動時の心筋虚血等の波形変化もみることができます。

マスター負荷試験

心臓に運動負荷をかけ、心電図変化を観察します。安静時では検出しにくい不整脈や狭心症の変化を運動により誘発する検査です。凸型の台を数分間昇り降りして頂いた後、ベッドに仰向けになり、運動後の心電図変化を記録します。

肺機能検査

COPD（慢性閉塞性肺疾患）、気管支炎、気管支喘息などの呼吸器疾患を評価します。また、手術前の心肺機能検査として行われます。

PWV/ABI 検査

PWV とは、心臓から押し出された血液により生じた拍動が、血管を通じて手や足に届く速度を見て、血管の硬さを表したものです。血管が硬いほどその速度は速くなります。ABI とは、足と腕の血圧の比を測定し血管の狭窄の程度を見ています。血管の詰まり具合の指標として用いられます。ベッドに仰向けになり、両腕と両足に血圧計を巻き、4 か所同時に血圧測定を行います。

超音波検査

人間の耳には聞こえない高い周波数を出す装置を用い、色々な臓器、部位の画像を表示することができる検査で比較的簡便に行え、また繰り返し検査しても超音波は人体にほぼ無害といわれており画像診断になくてはならない検査の一つです。

検査領域　：　心臓、腹部、甲状腺、頸動脈、上下肢血管、その他

採血～検体検査

・採血　外来患者様と健康管理センター受診者様の採血と入院患者様の採血管準備を行っています。

・検体検査

血液検査（生化学・血算・輸血・免疫）を中心に尿検査やその他穿刺液やぬぐい液等の検査を実施しています。

病理検査や細菌検査と、特殊な血液検査については委託の検査センターへ提出する窓口となって検体の受付から報告まで行っています。